

**臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
出生・発達分科会（第26期・第18回）
議事要旨**

1. 日 時 令和7年5月28日（水）9:30-11:15

2. 会 場 オンライン会議（zoom）

3. 出席者（五十音順）

高橋尚人、藤井知行（以上、会員）

石崎優子、神尾陽子、古庄知己、島 蘭 進、柘植あづみ、船曳康子、水口 雅、水野紀子、武藤香織、米村滋人（以上、連携会員）

笹月桃子（連携会員（特任））

4. 議事録作成者 高橋 尚人

5. 議事概要

（1）日本学術会議の動向

委員長の高橋より、新しい日本学術会議法案について、新しい法人となること、委員の選考について体制が変わること、第26期の委員はこのまま継続になることなどを簡単に説明し、それに対する日本学術会議の対応についても説明を行った。また、今期の意思の表出について学術会議側のスケジュールが変更になったことを委員の間で確認した。

（2）「現代の新生児医療における倫理的意思決定基準および代理意思決定の考え方」見解案

今回、主に見解案の項目立てについて全員の委員より意見を聴取し検討を行った。当初委員長の高橋が配布した案から、新しい項目立てへの変更が高橋から提案された。当初案にあった「長期的な医療・養護を要する子どもの生命倫理的問題」の大項目は削除し、その内容は「新生児医療の歴史と現状」の中に組み込むこととした。ただし、その項目名は用いず内容も限定し慎重に盛り込むこととした。「先天異常児の生命倫理的問題」の中の出生前診断や着床前診断の解説部分は概ね削除することとした。「先天異常児の治療の現状」は「新生児医療の歴史と現状」の中で一つの項目を作り説明する方向が良いのではとされたが決定はしなかった。今回の見解の中心となる「現代の新生児医療における倫理的意思決定基準の考え方と提案」と「新生児医療における代理意思決定方法」については、用語の定義を含め、大変多くの意見が出された。

委員長の高橋が、今回委員より出された意見を慎重に検討し、今後たたき台を作成し、

それを元に会議での検討を続けることとした。次回予定されている第 19 回会議までに高橋がそのたたき台となる案を配布することとした。

(3) 見解案作成の今後のスケジュール

すでに予定されている 6 月 11 日と 25 日の会議以降にも、7 月と 8 月にそれぞれ 2 回会議を行うこととし、最終案は 8 月中に取りまとめることとした。その後、その案を分野別委員会に提出し査読を受け、さらに第二部会の役員会での査読を受ける方向とした。この案については、11 月に以下に述べる二つの学会のシンポジウムで見解案として披露し、批判を仰ぐこととした。これらのシンポジウムを経て 2025 年 12 月に検討・修正を加えた最終版を完成し、科学的助言等対応委員会に提出し審査を受けることとした。

(4) シンポジウム

11 月 14 日に予定されている第 69 回日本新生児成育医学会学術集会でシンポジウムを開催し、今回の分科会の一部委員が出席することとした。

また、第 37 回日本生命倫理学会年次大会でのワークショップ開催を申し込むこととし、こちらも出席可能な委員が参加することとした。

さらに、2026 年 3 月に日本学術会議講堂を会場としてシンポジウムないし科学フォーラムを開催する方向で検討することとなった。

以上